総説 都市照明[†]

専門会員 石井 幹子*

1. ま え が き

都市の照明は、何によって構成されているのだろうか。

世界中にさまざまな都市があり、そこには特有の都市照明がある。同じ夜景の都市は二つとないほど、都市の昼が違うと同じように夜も違っている。

図1 エッフェル塔 (パリ)

パリの、近年投光照明が刷新されたエッフェル塔に昇ってみよう。パリの夜景は決して明るく燦然と輝いたものではない。しかし、しっとりと落ち着いた光のトーンに満ちている。節度のある商業施設の照明。控え目でそして変化

のある道路照明の中に、数々の歴史的建造物が光を浴びて浮かび上がっている。

ニューヨークの都市照明は、超高層ビルのひしめくマンハッタンの夜景に代表されるが、夜間でも消すことのない窓明かりが、幾重にも重なって豪華な光の島となる。道路照明は防犯上の目的からも整備されているが、夜景としては全く目立たないものである。

ロサンゼルス夜景は、ニューヨークとは対照的なものである。展望台として有名なグレフィス天文台から見るロサンゼルス夜の眺望は一見に値するものであるが、関東平野一円を広大な都市圏としてしまったこの地では、都市照明の主役は、何といても道路照明である。地平線まで続くかと思われるような光の列が視界一杯に広がる景色は圧巻である。

図2 東京夜景 (東京タワーより六本木・新宿方面を望む)

図3 東京夜景 (新宿より青山方面を望む)

では、東京の夜景はいかなるものだろうか。東京タワーに昇ってみよう。足許には銀砂子のような光が散らばっている。所々に繁華街の中心地—銀座、新宿、渋谷といった所の色とりどりの広告塔やネオンがみえる。道路照明は整

[†] Environmental Lighting for Cities

* 石井幹子デザイン事務所

Motoko Ishii

備されているが、道が曲がっているために光の骨格を成していない。住宅地からもれる光、建物の光、そして真っ暗な皇居やその周辺。自然発生的にでき上がった個性のない都市の照明であるのは残念なことである。

以上、世界の各都市の例に見られるように、都市照明は、さまざまな光の構成によって成り立っている。以下それらの構成要素について述べてみたい。

2. 都市景観照明

どの都市にも固有の歴史があり景観がある。古い歴史のある所にはすぐれた歴史的建造物が多い。比較的新しく発展した街でも、そこ独自の建造物やモニュメントなどがあるはずである。これらに夜間照明をして、その都市らしい景観を作るものが「都市景観照明」である。

(a) 神奈川県庁
(c) 横浜市開港記念館

(b) 横浜税関
(d) 横浜市開港資料館

図4 ヨコハマ夜景

図5 東京駅ライトアップ（東京駅丸の内駅舎全景）

この種の照明は1920年代のパリに始まり、30年代にはロンドンやヨーロッパの他の大都市に普及していった。

日本では、最近やっと都市環境の整備に目が向けられるようになり、電力需要にゆとりができたことと相まって、にわかに脚光を浴びるようになった。現在では、横浜市をはじめ、名古屋市、大阪市、仙台市などで、歴史的建造物への投光照明が盛んになってきている。

東京では、昭和61年暮れに東京駅ライトアップが行なわれ話題を呼んだが、折からの歴史的建造物の保存運動の口火ともなって、目下、保存の方向に向かっているのも景観照明の思わぬ効用であった。

3. 道路照明

ロサンゼルスのを引くまでもなく、道路照明は都市の

照明の中でも大きな比重を占める。道路にはさまざまな種類—自動車専用高速道路、一般用道路、歩行者専用道路といった用途別にも、また100 m道路といった幅広のものから車両通行が困難な小路まである。

夜間の交通安全のため、防犯上のためといった機能面だけでなく、街路灯としてその街らしい景観を演出する役割も、道路照明はになっている。日本の道路照明は、今まであまりにも効率本位の考え方を優先させてきたためか、画一的なハイウェイ灯のタイプが全国至る所で用いられているが、今後は、もっと景観面からも考慮された、また歩行者向きの道路照明を採用すべきではなかろうか。

自動車道路照明だけでなく、都市内の一般道路、歩行者専用道路、住宅地の道路などの照明が、バラエティに富みながらも、節度あるデザインで、他のストリートファニチュアとも統一がとれている例は西ドイツに多く、ミュンヘン、シュットガルト、ハノーバなどは、代表的な都市としてあげられる。

図6 ライトアップ大津（春・三井寺周辺）

4. 広場・公園照明

広場と公園は、都市空間においてたいせつな場所である。緑や水、そして四季折々の花で飾られる空間は、人々に安らぎといこいを与える。夜間それらの空間をどう光で演出するかは重要な問題である。

欧米の都市では、これらの広場や公園の照明が、都市照明のたいせつなポイントとなっている。パリのチュルリー宮の広場は、噴水照明を最大限に活用して夜間の名所としている。ヴェニスサンマルコ広場、ロンドンのトラファルガー広場など、有名な広場のほとんどが噴水には光を入れ、広場に面して建つ歴史的な建物などに投光照明を行なっている。

有名な大広場だけではなく、ニューヨークの高層ビルの谷間に作られた小さなポケットパークでも水に光がはいり、緑や花に照明されるなど夜間も使える魅力ある場所として照明計画が行なわれている。

公園についても同様で、夜間も安全で、しかも自然景観を照明によってより美しく見せようとする努力がなされている所も多い。日本では残念ながら広場も公園も特に照明の配慮がなされたものが少ないが、都市照明計画の大きな要素の一つとして、今後は十分に検討されるべきである。

う。

5. 商業施設照明

香港の夜景の美しさは有名であるが、その主なものは、色とりどりのネオンが、道幅いっぱいになるようにつられて輝く大きな看板照明である。昼間は雑踏と密集した建物がひしめきあう街が、夜になると光のファンタジーに溢れた街になる。香港は商業施設照明の都市である。

東京も似たような側面をもっている。銀座、新宿など、海外では昼よりも夜の景観のほうが有名である。特にバーや飲み屋街の看板照明の密集した地域は、よく外国の雑誌に紹介される光景である。

魅力あるネオンや電飾看板は、決して悪いものではない。都市に活気を与えることは確かであるが、昼間の景観には問題がある。また、より目立たせようと激しい点滅を行ったり、どぎつい色彩を多用することは、街全体の品位を落としてしまう。

都市照明全体の中で、商業施設照明がどうあるべきかということ、大勢の違った分野の人達を交えて、よく検討してある程度のガイドラインを作っていく必要があるように思える。

日本の商業施設照明の規制はきわめてゆるやかであるが、香港は点滅が禁止されているし、パリでは色の使用の制限がある。北欧の諸都市ではサイズ、色など厳しく定められている。

6. 建築外観照明

ニューヨークの例を引くまでもなく、高層ビルの外観の光が、都市照明を左右するケースは多い。特にガラスと鉄骨で作られている現代建築では、夜間になると建物は巨大な灯具となる。最近では、照明を積極的に用いて独特な夜景を作ろうとする建物も増えてきた。ガラスでは、超高層ビルの建物の輪郭を白いネオンの線で表わした照明デザインのビルができて話題となった。またニューヨークのマッドハットでは、超高層ビルに積極的に外観照明を行ない、際立った特徴をもたせてアイデンティティーを高めようとする試みがなされている。

エンバイヤー・ステート・ビルディングもその例の一つとしてあげることができるが、先端の部分に照明を組み込み、常時は白色、独立記念日には赤と青が加わり、クリスマスには、赤と緑が点灯するといったデザインがなされている。

7. 住宅地照明

飛行機が空港に着陸する前、私はよく都市の照明を上空からつぶさに観察する。各々の街の光の骨格が明確にわかって、きわめて興味深いものである。商業地区やオフィス街などは光の量は多いが、どの都市も面積的には住宅地の占める割合が大きい。

住宅地の照明は、道路照明を家々からもれてくる明りの

2種類だから、当然都市の中では暗いゾーンとなる。

最近、庭園照明のリサーチをするためにロサンゼルス市近郊のビバリーヒルズを夜間に訪れた。この全米きっての豪邸街は、美しい並木道の両側に手入れの行き届いた大きな庭付きの一戸建の邸宅が建ち並ぶ。ほとんどの家の庭にはプールがある。夜になるとこれはまさに庭園照明のショールームといった所で樹木投光、花壇照明、プールや池の水中照明とふんだんに光がとり入れられている。

住宅地照明が、防犯灯と門灯だけといった日本の情況も、将来は変化していくのではなかろうか。

8. 都市演出照明

欧米の大都市を12月に訪れるのは楽しい。どこも趣向をこらしたクリスマスのイルミネーションを街中に展開しているからである。目抜きの大通りや、有名な広場は賑やかである。ニューヨーク市のクリスマス照明は特に有名で、それを見るための観光客も多い。12月始めの点灯開始日は大勢の人が賑わい、五番街は人波に埋まる。

パリのシャンゼリゼや、ロンドンのリージェント通りの

図7 レーザパフォーマンス (大阪'86)

図8 かつしかハーブ橋

イルミネーションもまた有名である。これらは都市の演出照明ともいえるべきであろう。

日本では夏に光の大演出がみられる。代表的なものは大花火であろう。隅田川の大花火は江戸時代から続いたものであるし、その他日本中の各地で都市的スケールの素晴らしい大花火が次々と催される。

光を用いた祭も日本には多い。京都の大文字焼きは世界でも類をみない光のイベントであるが、他にも秋田の竿灯祭、青森のねぶた祭、山鹿の灯籠祭、各地で催される精霊流しなど、宗教的な背景をもつイベントが多彩である。

都市ぐるみの光イベントは、都市照明の華ともいえるよう。

以上述べたように、都市照明はさまざまな照明を統合して成り立っている。よい都市照明を作っていくことは、各々の照明がよいというだけでなく、バランスのとれた照明が望ましい。道路照明だけ整備されている都市は味気ないし、また商業施設照明ばかり目立つようでは具合が悪い。どの照明も過不足なく行なわれた上で、その都市独特の照明デザインが加わるとよいのではなかろうか。

(受付 1988 年 6 月 7 日)